

# 生理痛の弁証論治

大分大学医学部  
東洋医学研究会

# 生理痛の証

## 【瘀血】

子宮胞の血瘀によって子宮胞内に瘀血が形成され、月経中、その瘀血の排泄に伴って固定性の刺痛を起こす

## 【肝鬱気滞】

子宮胞の気滞によって月経中に血の排泄がスムーズに行えず脹痛を起こす

## 【血虚】

子宮胞の血が不足し、月経期間中の気の巡りに伴う血の排泄が伴わず隠痛を起こす

## 【寒凝血瘀】

内寒が子宮胞に侵入凝結し、気血の循環の滞りをもたらして痛みを起こす

# 生理痛の弁証ポイント

## 1) 生理痛の時期

月経の前半、月経の後半

## 2) 経血の性状

血塊、稀薄

## 3) 痛みの性状

陰痛、刺痛、脹痛、絞痛

## 4) 随伴症状

# 症例

36歳 女性

主訴：生理痛、頭痛

数年前から頭痛、生理痛、連日の不眠がある。

1週間に2-3回の頻度で、後頭部から側頭部に

脹ったような強い痛みがあり、月経の際は血塊が多く、  
血塊が排出されると痛みもなくなる。

頭痛、生理痛、不眠の際には強い焦燥感を伴う。

脈：沈・弦 舌：偏紅・白苔少

# 弁証論治

【八綱】裏・實・熱

【氣血津液】氣滯・瘀血

【臟腑】肝氣鬱結・瘀血

【治法】疏肝理氣・活血化瘀

【方劑】加味逍遙散＋桂枝茯苓丸

# 解説

側頭部の脹ったような痛み、強い焦燥感、弦脈は肝気鬱結の症状。不眠も肝鬱によるもののようにである。

血塊排出後におさまる月経前期の下腹部の刺痛は瘀血による月経痛。

女性の肝気鬱結はしばしば瘀血を合併する。

肝気鬱結の月経痛には加味逍遥散を使うが、瘀血を伴っていたため桂枝茯苓丸を併用。

# 症例2

22歳 女性

主訴：生理痛

数年前から月経1-2日目に

刺されるような激しい下腹部痛がある。

月経痛の期間は血塊を伴い、血塊が少なくなると  
痛みもおさまる。

脈： 舌：淡紅・舌下静脈怒脹

# 弁証論治

【氣血津液】瘀血

【治法】活血化瘀

【方劑】桂枝茯苓丸＋四物湯



# 解説

月経1-2日目の固定した刺痛、血塊、血塊が少なくなると痛みもおさまる、舌下静脈怒張、いずれも瘀血の典型的な症状・所見。

四物湯は血虚に使う補血剤であるが、活血の働きもある。

# 参考文献

- 『漢方・中医学入門』  
著：梁 哲成 発行：燎原書店
- 『いかに弁証論治するか』  
著：菅沼 栄 発行：東洋学術出版社